

【がん種】 [大腸癌](#)
【レジメン名】 CapeIRI
【登録番号】 160556
【1コースの期間】 3週間
【総コース数】 進行・再発:PDまで
【投与間隔調整規定】 ー1日
【催吐性リスク】 中等度:カンプト、軽度:カペシタピン
【抗がん剤の組織障害性】 イリタント(炎症性):カンプト
【投与量に制限のある薬剤】 なし
【主な有害事象】 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、疲労、コリン作動性症候群、間質性肺炎、悪心、嘔吐、食欲不振、口腔粘膜炎、味覚異常、下痢、便秘、脱毛、手掌・足底発赤知覚不全症候群

【必要な検査】 一般採血、間質性肺炎の確認
【根拠論文】 Lancet Oncol 2018;19:660-71.

【点滴の時間】 [day1]3時間
【その他】 カペシタピン投与量: BSA<1.31m²:1800mg/日, 1.31m²≤BSA<1.69m²:2400mg/日, 1.69m²≤BSA<2.07m²:3000mg/日, BSA≥2.07m²:3600mg/日.
 カンプト: UGT1A1に*6(*6/*6), *28(*28/*28), *6(ー/*6)+*28(ー/*28)のいずれかの多型がある場合は150mg/m²に減量して投与する.

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日								
					1	2	3	...	15	...	21		
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○								
2	生理食塩液 100mL アロキン静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分	○								
3	5%ブドウ糖液 250mL カンプト点滴静注	1 B 200 mg/m ²	側管	90分	○								
4	カペシタピン錠「日医工」 1日目の夕~15日目の朝まで	1600 mg/m ² /日	内服	1日2回夕食後	△	○	○	○	△				
5	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○	○						

【CapeIRI減量・休薬・中止基準】

Lancet Oncol 2018;19:660-71.

減量	カンプト	カンプト UGT1A1に*6(*6/*6), *28(*28/*28), *6(-/*6)+*28(-/*28)のいずれかの多型がある場合
開始量	200g/m ²	150mg/日
1段階	150mg/m ²	125mg/日
2段階	125mg/m ²	100mg/日

体表面積 m ²	カペシタピン減量		
	開始量	1段階	2段階
BSA<1.26	1800mg/日	1200mg/日	1200mg/日
1.26≤BSA<1.31	1800mg/日	1800mg/日	1200mg/日
1.31≤BSA<1.69	2400mg/日	1800mg/日	1200mg/日
1.69≤BSA<1.76	3000mg/日	1800mg/日	1200mg/日
1.76≤BSA<1.88	3000mg/日	2400mg/日	1200mg/日
1.88≤BSA<2.07	3000mg/日	2400mg/日	1800mg/日
2.07≤BSA<2.26	3600mg/日	2400mg/日	1800mg/日
2.26≤BSA	3600mg/日	3000mg/日	1800mg/日

有害事象	Grade	用量調整
好中球数減少	3以上	カンプト、カペシタピン1段階減量
2週間以上持続する好中球数減少	2	
血小板数減少	3以上	カンプト、カペシタピン1段階減量
2週間以上持続する血小板数減少	2	
手掌・足底発赤知覚不全症候群	2以上	カペシタピン1段階減量
他の非血液毒性	3以上	カンプト、カペシタピン1段階減量

※手掌・足底発赤知覚不全症候群、高血圧、脱毛、体重減少を除く